

令和3年度 氷見市教育総合センターだより 第4報

学力向上研修会 7月27日（火）開催
講師：元早稲田大学教授 露木 和男 先生



令和3年度夏季研修会の第1弾として、元早稲田大学教授 露木 和男先生を講師にお迎えし、「学力向上研修会」を開催しました。

前半は露木先生ご自身による模擬授業と研究協議でした。本時の目標を「釘を磁石につなげて付くようにする活動を通して、磁石のもつ力に気付くとともに、その不思議さや楽しさを感じる」と設定した理科の授業でした。参加した教員はそれぞれ知恵を絞り、夢中になって学習活動に取り組んでいました。後半は、教員からの質問に露木先生が直接答えてくださるコーナーでした。一つ一つに丁寧に対応して下さり、質問した教員のみならず、参加者全員が多くを学べる機会となりました。

<参加者の声>

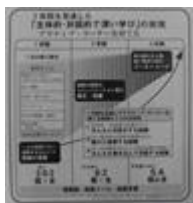
- ・磁石の模擬授業は時間を忘れ、夢中になりました。このような実験や授業を中学校の理科でも行いたいです。綿密な計画の下、子供たちが発想豊かに活動できる授業を目指したいです。
- ・模擬授業では、久しぶりに子供の気持ちになって磁石の特性について考えることができました。「楽しい活動の保障」こそ、授業者の使命だと改めて思いました。
- ・「子供の学びがつながる瞬間」を仕組むために、指導者がその単元、又はその時間に気付いてほしいことを明確にもっていることが大切だと思いました。経験が再構成された一瞬を体験することが、学ぶことの楽しさにつながると思いました。
- ・「子供の発想を逃さない」という言葉が印象的でした。目標をもって作成した設計図（指導案）から予想だにしなかった子供の発言が出たとき、教師の力量が試されると感じました。
- ・たくさんの先生方の日頃の悩み等、共感できることが多々ありました。その件に関し、露木先生の「目の前にいる子供のためだから悩みが生まれる」という言葉に感動しました。
- ・先生自身も楽しみながら教材研究をすること、周りの子供たちや現実を変えようとするのではなく、自分を変えていくことが大切だと学びました。



教育セミナー 8月18日（水）開催
講師：菊池道場主宰 菊池 省三 先生



新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。午前は小学校教員、午後は中学校・義務教育学校教員を対象として、「児童生徒が意欲的に学習



に取り組む学級づくり・授業づくり」をテーマに、ご自身の実践を数多く紹介してくださいました。「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、アクティブ・ラーナーを育てる必要があること、そのためには教師が「学級づくり・授業づくり」におけるゴールイメージをもち、1年間の見通しを立てて児童生徒を指導する必要があること等、教員として目指していくべきことを教えていただきました。

<参加者の声>

- ・「空気の暴力」「不機嫌は罪である」という言葉が印象に残りました。教室の雰囲気をよくするためには、まず教師がにこやかでいなくてはならないと改めて思いました。
- ・子供を褒めるとはどういうことなのかを改めて考えるよい機会となりました。自分が普段子供をどんな場面で褒めていたか振り返ることができました。
- ・「対話力＝話す力×聞く力」が納得できました。対話はスピーチとは違い、聞く力や質問力、関係づくりと関連しているという話とつながりました。
- ・「褒めるとは相手の価値を発見して伝え、相手や周りを元気で笑顔にすること」と言われたことが印象に残っています。温かな人間関係の中で、コミュニケーション力が育成されることが分かりました。
- ・教育活動全てにおいて、聞き合う集団をつくるのが大切だと感じました。「『聞く力』を育てる授業における言葉かけ」を、授業中や活動中に意識して使うように心がけたいと思います。

外国語教育実技研修会 8月12日(木)開催 中教研共催

講師 富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生

市内中学校・義務教育学校の英語科教員及び小学校英語専科教員を対象に、外国語教育実技研修会を開催しました。

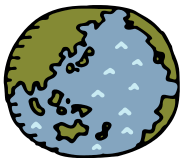
今回は中教研との共催であり、前半は英語部会の進行で行われました。「やり取り」の力を身に付ける帯活動として、各校で実践した取組が動画で紹介され、熱心な意見交換が行われました。

後半は、「新学習指導要領の下での授業改善」をテーマに、富山大学大学院教職実践開発研究科教授 岡崎 浩幸先生のワークショップがありました。新しい教科書を使用して行う「やり取り」の活動や評価等について多くの助言をいただき、参加者は、2学期に繋がる授業改善について具体的に考えることができました。



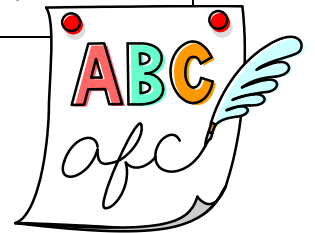
(参加者の感想)

- ・「やり取り」→「発表」→「書くこと」の流れがよく分かった。しっかり意識して、実践していきたい。
- ・「やり取り」の内容をそのまま発表に生かすという例を教えてくださいました。いざ発表となるとなかなかできない生徒が多い。自分のことをしっかり伝えられるような「やり取り」になるよう、日頃から内容を工夫し、次の発表につなげるようにしたい。
- ・生徒の理解度を様々な方向から把握するために、教師が、事前に何を確認したいのか、発問のねらいを明確にしておくことが大切だと改めて思った。
- ・「How」や「Why」をもっと取り入れて、英文を深く読ませる活動を取り入れていきたい。
- ・教科書が変わって毎日が大変だが、自分自身が楽しむことを忘れないでいたいと思った。
- ・久しぶりに中教研の部員全員が集まって研修することができた。他校の動画はとても刺激になった。



ALT からのメッセージ

ALTのケイ先生が9月末で氷見市の勤務を終えられます。メッセージをいただきましたので紹介します。



Thank you for the opportunity to teach English in Himi schools for the past 2 years! I feel like time went by so quickly. Living in Himi was a very different experience for me. Himi is the opposite of Manila, the city I was born and raised in - very few cars and buses, surrounded by tall mountains, the sea, trees, and beautiful nature in a slow-paced environment.

While working in Himi, I realized how much work is still needed to make people accept differences. I realized how much more we need to respect and accept one other. The USA ≠ the world; there are many other countries, too. We all need to work on changing our way of thinking. We must recognize that many of the things and ideas we have learned in the past are racist, discriminating, and hurtful towards others. We need to make our society better by being kinder, and more careful with our thoughts, speech, and actions.

From the bottom of my heart, thank you to everyone in Himi. I will forever remember the people who have helped me enjoy my stay here, and cherish all the memories I have of this city.

新ALT紹介

9月から、ジュリアナ・フォンタナ先生がALTとしてインタラック(ALT派遣会社)から氷見市に派遣されています。出身はアメリカで、フロリダ州立大学卒業です。

幼保小連携教育合同講演会

7月28日（水）開催

演題 幼保小接続を構造化する3つのステップ

講師 山梨県立大学 教授 阿部 美穂子 先生



幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、氷見市子育て支援課と合同で講演会を開催しました。

阿部美穂子先生は、一人一人の発達の様相を踏まえ、実態に応じた支援が必要であると力説されました。子供が安心して学ぶことができるように、幼保小接続を構造化する3つのステップ、①全員の子供への配慮、②折に触れて個別に配慮、③特別な個人的配慮について具体的に挙げられました。そして、地域のもつ特質や環境要因が大きく影響するため、一般化された内容

ではなく、各幼稚園・保育園・小学校の実態に応じたオリジナルな内容を生み出していくことが大切であると教えていただきました。

後半は、西の杜学園の屋敷香奈子先生による実践発表「小学校1年生からのICT活用」がありました。「簡単なことから 気軽に 毎日」をキーワードに、積極的に活用されており、多くのヒントをいただきました。生き生きと活動する1年生の姿から、小学校生活への理解を深めたり、ICT活用への意欲を高めたりすることができました。

生徒指導研修会

8月3日（火）開催

テーマ 通常の学級で行う特別支援教育について

講師 富山県立高岡支援学校 特別支援教育コーディネーター

吉竹 尚子 先生・密 千春 先生

様々な課題を抱える児童生徒に対する特別支援教育の視点からの指導・支援の在り方について理解を深めるため、生徒指導研修会を開催しました。

前半の講義の中では、学級で見られる児童生徒の行動に対して、苦手や特性等も含めた背景を理解し、個別の教育的ニーズに応える指導・支援を行うことの重要性を教えていただきました。また、学級全体への指導・支援として、学習環境や学習規律の整備、指示・言葉かけの工夫等、具体的な取組を示され、障がいのある子にとって学びやすい環境は、どの子にとっても学びやすい環境だということを強調されました。

後半は、応用行動分析学の視点からの分析方法を教えいただき、具体的な事例についてグループに分かれて検討しました。2色の付箋を使って、個と学級それぞれへの配慮・支援について様々な意見を出し合うことができました。



<参加者の声>

- 教室に支援を必要とする子供は4～5人いると思います。その子供たちに対する支援の考え方を知ることができました。困った行動を整理することから始めたいと思います。
- 児童生徒の問題と思われる行動を、どうしてそんなことをするのか子供の立場で考えることで、支援のやり方が見えてくると改めて感じました。
- 環境整備の座席の工夫は、なるほどと思いました。見えるように分かりやすく示すことは、どの子供に対しても大切だと感じました。

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業

竹添あゆみ先生による講演会 会場：十三中学校 7月1日（木）開催

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、本年度は「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業講演会を各中学校で開催することとしました。

第1回目は十三中学校において、2年生27人が、市内で「考えるパン KOPPE」を開業した竹添あゆみさんから話を聞きました。店の成長より、お客さんや自分の満足を大切にしていること、普段から考えることを大切にしていること等について、生徒に語っていただきました。

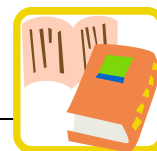


<講演を聴いての生徒の作文より> 一部抜粋

- ・私は今回の講演を聴いて、新しいことに挑戦することの大切さと、考えることの重要性の二つについて考えました。竹添先生の表情はとても輝いていて素敵だったので、私もいろいろなことに挑戦してみたいと思いました。
- ・私はこの講演を通して、働くことはただ単にお金を稼ぐためだけではなくて、他の人を想い、その仕事の楽しさ、やりがいを見付けることが大切なんだと思いました。「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」はこのことを念頭に置きながら取り組みます。
- ・職に就くということは、一人一人がもっている気持ちで大体決まるのかなと思いました。全員が望みどおりの職場になるとは限らないけれど、この講演会を通して、自分のやりたいことに対してもっと興味をもつことが大事だと思いました。

おすすめ図書の紹介

本年度、教育総合センターでは、下記の参考図書を購入しています。ぜひ、ご活用ください。



図書名	著者・発行	内容紹介
スマホ脳	アンデシュ・ハンセン (久山葉子訳) 新潮新書	IT業界のトップは我が子にデジタル・デバイスを与えないと言います。それはなぜか？教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラーです。
小学校国語 教科書にそって使えるアクティブ・ラーニング 50 の授業実践例 小学校算数 教科書にそって使えるアクティブ・ラーニング 50 の授業実践例 (1・2年) (3・4年) (5・6年)	菊池省三 外7名 喜楽研	<はじめにより> 本書では、アクティブ・ラーニング〔主体的・対話的で深い学び〕につながるように、まず、子供たちに投げかける問題や発問を大切にしています。次に、人と人との関わりを基盤とした学習過程を大切にしています。先生方が目の前の子供たちの実態に応じて本書を参考に、授業を組み立てて取り入れてほしいと思います。
10分でできるなかよしスキルタイム 35	水上和夫 図書文化	毎月の生活目標や学校行事とタイアップさせて体験学習する全35週分の指導案集です。
幼児教育から小学校教育への接続	田澤里喜・ 吉永安里 世界文化社	「幼保小のスムーズな接続は、互いの姿を知ることから始まる」本年度の幼保小接続研修会において、横山指導主事が推薦された図書です。
ドラえもん はじめての英語図鑑	小学館	ドラえもんのイラストや写真を楽しみながら、小学生に必要な英語力が自然と身に付く本格的な絵図鑑です。
?に答える! 小学英語	学研プラス	小学英語に関する疑問を丸ごと解決。「会話編」と「英和・和英辞典」で編集されており、音声アプリ対応で、教科としての英語対策に応えることができます。
特別活動で学校を楽しくする 45 のヒント	安部恭子 (文科省調査官) 文溪堂	基本的な特別活動にしっかり取り組むことによって、児童が「学校に行くことが今よりも楽しみになる」ことを目指した1冊。比美乃江小の実践が掲載されています。
実践事例でわかるタブレット活用授業	田中博之 学陽書房	子供同士をつなげる! 資質・能力を育てる! 一人一台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業ができる! GIGAスクール構想対応の1冊です。
つくってあそべる 集まれ! おもちゃっ子	田中世津子 北日本新聞社	失敗してもくじけずあきらめないこと、どうしたらよい結果になるか考え続けること等を、子供たちがおもちゃ作りを通して学んでくれたらと願って制作された1冊です。